今回までの議論の中間的整理

本日の討議資料　資料10－5

【第1期シリーズ】

安全に資する科学技術のあり方（中間報告）～意義・目標・方針について～（17．4．13）（抜粋）

安全に資する科学技術の方針

①　比較優位技術・国際標準化が可能な技術、②　総合的な安全保障などの観点から自立的に維持すべき技術、代替技術の確保、③　国際協調・連携に係る技術

【第2期シリーズ】

大規模災害

1－①　現代の災害は、自然と人間との複合体であると認識すべき
1－②　リスク防止の防災とある程度リスク許容の減災との組み合わせが必要
1－③　現状追認ではなく、安全を脅かす事態の原因を抑えるべき
1－④　災害対策には、ゴール、目標等からなる戦略計画を立案する必要
1－⑤　予測できないものは防災できないため、新たな現象の予測を行うべき
1－⑥　許容できないリスク（アンアクセプタブルリスク）を明確にすべき
1－⑦　大規模災害時の消防活動の強化（過密都市部、危険物施設等）
1－⑧　防災科学技術分野における先進技術の活用促進

NBCテロ

2－①　近年、NBCテロの脅威増大（身近な脅威であると認識すべき）
2－②　テロリスト等の情報収集・分析を重視すべき
2－③　重要施設等の恒常的なNBCテロ監視・探知を重視
2－④　BC現場同時検知技術を早期実現すべき（迅速化、高精度化）
2－⑤　ファーストレスポンダー等のためのNBC防護技術の向上を図る必要
2－⑥　トリアージ、ゾーニング、最大多数の被害者搬送を重視すべき
2－⑦　NBCテロ同様に、災害時を考慮した管理体制・対処手段も必要
2－⑧　NBCテロにおける現場退避優先について国民に周知啓発する必要

各種犯罪

3－①　犯罪に関わる情報収集・分析技術の向上を図る必要
3－②　空港・港湾における水際対策の充実強化
3－③　地図情報システム等を活用した犯罪情勢分析の促進
3－④　科学技術基盤を活用した初動対処・捜査の充実強化
3－⑤　個別事犯別対策のみならず、マクロ的な治安対策についても、科学的アプローチを適用すべき

共通事項

4－①　国、社会・経済、国民にとって何が脅威であるのかを明確にすべき
4－②　国民の安全に関わる情報の開示と不開示とを明確に区別すべき
4－③　自然科学と社会科学との両面からアプローチすることが重要
4－④　人材、経費等を有効活用し得る研究開発システムについて検討すべき
4－⑤　NBCテロ対策などの研究開発体制の見直し（P4施設・産学官連携強化等）
4－⑥　情報関連分野は、全分野に共通事項、横串的に議論する必要
4－⑦　脅威の対象は分野・業界横断的であり、細分化して検討すべきでない
4－⑧　NBCテロ対策技術等の成熟度に関するデータマップを作成すべき

- 国、社会・経済、国民生活の安全を脅かす事態（リスク）の中から、許容できないリスクを設定し、その被害低減のための対策を優先
  （例えば、自然災害やテロなどの防止困難なリスクのうち、国民の生命、社会基盤（インフラ）、金融システムなどの想定被害大であるリスクなど）
- 大規模災害、NBCテロ及び各犯罪の対策については、**第一義的には、リスク予防を重視**
- その際、設定されるリスクに対し、必要な予防対策を講じても、なおかつ、防止困難なリスクについては、**初動対処を充実強化**（関連技術の比較優位（強み）と技術欠落（弱み）とを勘案）
- また、災害・テロ・犯罪等においては、救命救急、被害拡大防止の観点から、多くの共通事項を有するため、リスク別ではなく、横断的技術について積極的な取組みを実施
- 上記の観点から、重点化すべき科学技術の領域を策定し、その実現に向けた個別技術の向上を図り、もって安全・安心な社会を実現